

気づき、考え、実行する さし人つうしん

唐津市立佐志小学校
学校だよりNO.23
令和5年2月20日
文責：校長 松野克己

5年生ワカメの収穫+環境学習



マイナスゼロにする「カーボンニュートラル」のお話をきかせてもらいました。最近、ニュースを見ていて驚いたのですが、現在、二酸化炭素を多量に排出する石炭の需要が過去最高になっているそうです。ロシアのウクライナ侵攻で天然ガスの価格が高騰したことが主な理由だということで、環境改善に取り組む一方で、環境汚染も進んでいる悲しい現実を知りました。このような環境問題への理解を深めたあと、5年生の子ども達は種付けをした防波堤からワカメの水揚げの様子を見せてもらい、その後、唐房漁協の作業場で坂口指導教諭の指示に従って、ロープから切り離す収穫を体験しました。昨年度に増して大きなワカメがぎっしりと育っており、最初は恐る恐る、次第に大胆に切り離していました。みるみるうちにワカメがぎっしり入ったビニール袋が並び、子ども達だけでなく、JALや九大、報道関係の方、教職員もいただくことができました。昨年も感動したのですが、お湯に入れた途端に茶色から鮮やかな緑に変色する様子は「お見事！」と言うしかありませんでした。ごちそうさまでした。(といっても、食べ終わるにはまだ数日はかかりそうです・・・)

2月16日(木)に5年生がワカメの収穫をしました。このワカメは「さし人つうしん NO.18」でお伝えしていた11月24日に種付けをしたものです。海の中ですから成長の様子は分からないのですが、からふさ研究会の方から順調に育っているということを知っていたので楽しみにしていました。

この収穫に先立ち、種付けの時にも参加されたJALの方から航空機の燃料のお話を聞きました。航空機の燃料は「ケロシン」という純度の高い灯油を使っているようですが、それを主に植物を原料とした「SAF(サフ)」という燃料に変えることで、使った後も植物に取り込まれるサイクルとなり、持続可能にすることなんだそうです。また、九州大学の早淵先生からは、排出せざるを得なかった二酸化炭素と同じだけの量の二酸化炭素を吸収除去してプラス



きれいな海を守りたい



5年生はワカメの収穫を終えた後にもう一つ活動がありました。前回同様、人工海浜のゴミ拾いをしました。また、2月14日(火)には6の2が幸多里浜のゴミ拾いをしました。一見、海沿いはきれいに見えるのですが、砂浜の奥の部分やテトラポットにはたくさんのゴミが落ちています。特に気になるのがペットボトルやプラスチックのゴミの多さです。プラスチックゴミは劣化して破片となっているため、人間が泳いだり遊んだりするときにたいへん危険です。また、ご存じのようにウミガメや海鳥にとっては、生命を脅かす要因となっています。ゴミを拾うことは当然環境美化につながりますが、それ以上にゴミを捨てないことが大切です。ペットボトルはちゃんと資源ゴミとしてリサイクルしたいものですし、ビニール袋が風で飛ばされるようなこともないよう心がけたいものです。マスクもよく落ちていますね。2月21日(火)には、6の1がむかい浜公園のゴミ拾いを予定しています。

入賞 おめでとう!

※例年以上にたくさんの県入賞者が出ました。

学童美術展・立体の部

県特選 2年中野あおい 3年牧野かほ
 県準特選 1年丸高えみる 2年平田なつ 2年宮崎ちか 3年近藤ようた
 3年伊藤ほのか 3年古川すみか 5年白川あいらり 6年瀬戸ななこ



県で入賞した10名



県特選2名の作品

新年書き方会 ※作品は2月21日(火)までアバンセに展示された後、学校に戻ってきます。

県特選 2年古賀ゆな
 県準特選 4年古賀ゆかり

卒業式におけるマスク着用の対応

2月13日に県教育委員会から卒業式におけるマスク着用の基本的な考えが示されました。これを元に各学校判断でマスク着用について定めることになります。本校では次のように取り扱います。

【卒業生】

十分な座席の間隔があることから、入退場を含めてマスクを着用しません。

【在校生(4・5年生)】

間隔が狭いことから原則マスク着用とします。ただし、強制はしません。

【6年担任】

マスクは着用しません。

【教職員】

マスク着用とします。ただし、卒業証書授与時には校長は外します。

【保護者】

マスク着用をお願いします。

※手指の消毒や換気の対策はこれまで通り行います。

ワカメ収穫の動画はこちら→



2月18日(土)の佐賀新聞にワカメ収穫の記事が載せてありました。下のQRコードを読み込むと動画も見るができます。

海藻の環境効果学ぶ

佐志小児童、ワカメ収穫体験



自分の身長ほどのワカメを切って収穫した児童
 唐津市唐房

唐津市

唐津市の佐志小の5年生40人が16日、唐房

漁港で養殖したワカメを収穫した。唐津市と九州大、日本航空(JAL)の3者が連携して取り組むプロジェクトの一環で、地球温暖化の緩和策として着目され、海藻

に40本のロープ3本に種付けを行っていた。

JALの担当者、植物や廃油を原料とし、環境負荷の低い航空機用燃料(SAF)の開発に取り組んでいることを紹介。九州大の早淵百合子准教授は、ワカメが二酸化炭素(CO₂)を吸収する役割を持つことを説明した。

収穫ではロープ1本を引き上げ、残り2本はCO₂の吸収源として海に残した。児童たちは4カ月近くで1斤ほどに育ったワカメの成長ぶりに驚きつつ、はさみを使って摘み取った。清水楓汰君は「ワカメは環境にいいのだと思った。みそ汁に入れたり、ポン酢に付けて食べたい」と話した。

(松岡蒼大)